

# 銀澤大学について

- 大学名：銀澤大学
- 歴史：来年4月で創立10年（創立2001年）  
薬学部・生活科学部・大学院  
学生数 2000人
- 紀要発行数：各学部・研究科 各1誌
- 特色 製薬会社との連携  
地域貢献

## 企画

- ★ 創立10周年記念事業の一環として、  
機関リポジトリを立ち上げる企画を提案
- ★ 創立5周年記念で紀要のWeb公開を開始し、  
現在5年目
- ★ 図書館とシステム課との共同企画


創立10周年記念事業



銀澤大学リポジトリ  
Ginzawa University Repository

2009.8.7

理事会説明資料



内容

★リポジトリとは

★リポジトリのメリット

★教員への負担

★公開までのスケジュール

★費用

★今後の展望

# ★機関リポジトリとは

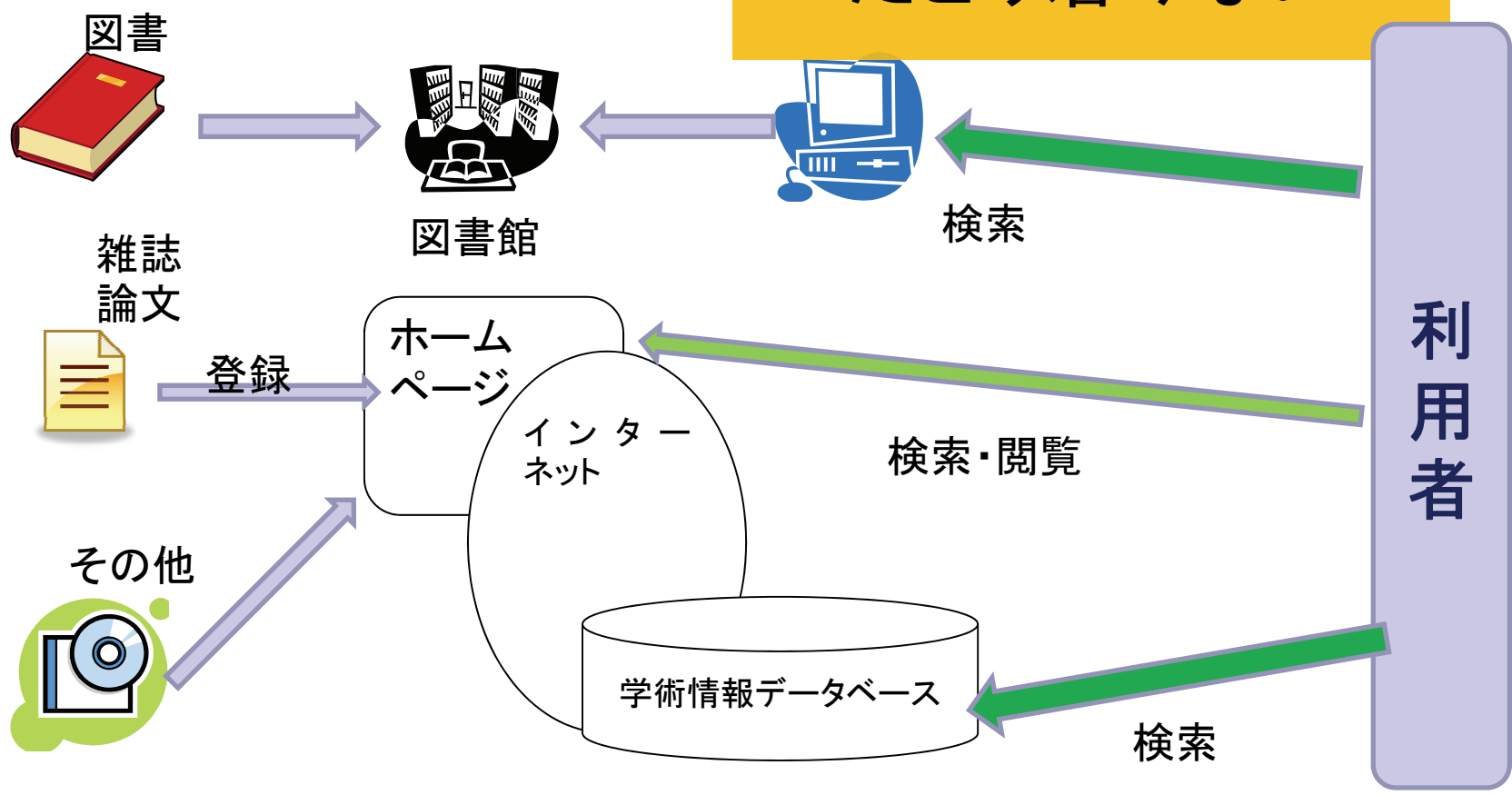
- 「大学等の学術機関内で作成された、さまざまな学術情報を収集，蓄積，発信することを目的とした，インターネット上のサーバ」

（『学術コミュニケーションの新たな地平  
：学術機関リポジトリ構築連携支援事業 第1期報告書』2009より）

現在のWebと何が違うのか

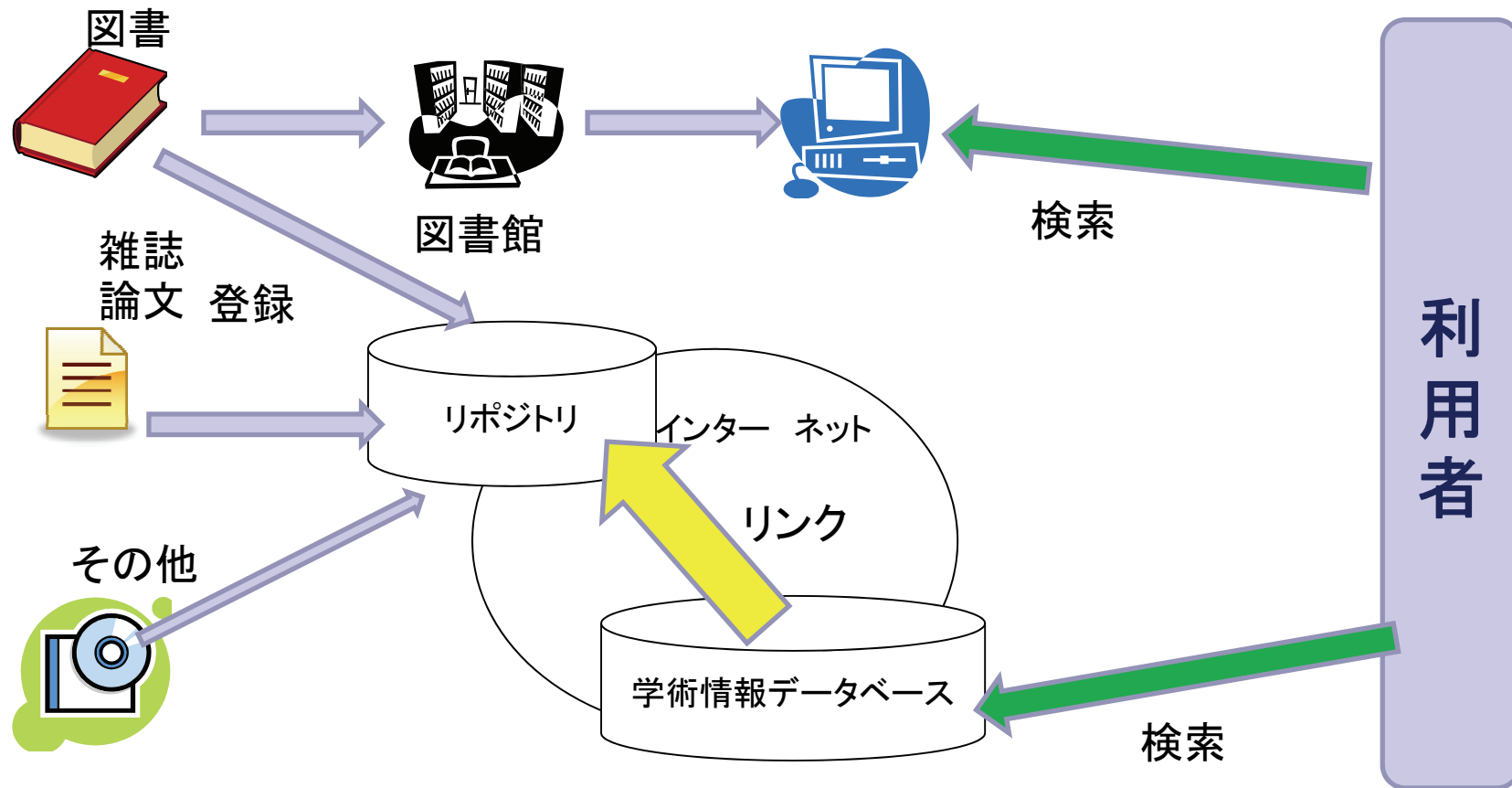
# 今までのWEB公開

利用者がなかなか  
研究成果に  
たどり着けない



# 機関リポジトリだ

利用者が研究成果を見つけやすい



メリット

## 研究成果の集積と公開

地元に着した大学の「見える化」

研究紀要  
学位論文  
研究者の研究論文

今まで存在感の薄かった研究成果の利用度アップ

その他

研究紀要の発行にかかる業務の省力化

教員の業績の管理・公表にかかる業務の省力化

他機関からの紀要のコピー要求が減ることで、業務省力化

教員の協力が必要

大学内の一体感



# 教員への負担



- 検討委員会への参加
- 論文のファイルの提供
- 研究論文情報の登録
- 著作権処理（図書館が担当）

# 経費

- 初年度導入費用 80万円  
システム導入費用  
初期コンテンツ登録費用

コンテンツ登録に費用  
はかけない  
(外注すると30万円)

- 次年度以降  
コンテンツ管理・登録費 35万円  
システム保守費 24万円/年(5年契約)

紀要発行にかかる  
費用削減  
教員業績管理にかかる  
業務省略

# 公開スケジュール



- 2009年9月 導入委員会発足  
導入システムの選定開始
- 10月 検討開始
- 11月末 システム決定
- 12月 システム納入・構築開始  
運用規程作成  
著作権処理
- 2010年1月 データ準備、作成
- 2月 テスト公開
- 4月 本公開・10周年記念式典



## ★今後の予定

2010年度 研究紀要(創刊号)から登録

教員の学術誌掲載論文登録開始

2011年度 修士・博士論文 登録

2012年度以降 登録予定

公開講座記録

特色あるオリジナルコンテンツ

ご清聴ありがとうございました

愛せよ 尽くせよ 輝けよ